京都大学理学研究科付属植物園 \* 京都市左京区

て、植物園がある。並ぶ一角に埋もれるようにし埋学部、農学部の建物が立ちスが広がっている。その中のもとに京都大学吉田キャンパ標高1~1がの吉田山のふ

と見直した。かさりことは植物園、に多いチャンチンモドキと間に多いチャンチンモドキと間がろ見慣れない木がヒマラヤが、そばにニョキッと立って板が掲げられているだけ。だえない。入り口に控えめな看

クしながら足を進めた。趣が違いますから」。ワクワ「どうぞ奥へ。場所ごとに

環境を考慮しつつ、系統立てで集めた様々な植物を、生育ー・6秒の敷地内には国内外の年以上の歴史があり、約



案内は ひだか さしたか **日高 敬隆**さん

ぶか」「春の数えかた」など著書多数。 動学会の初代会長。「チョウはなぜ飛立大学長などを経て現職。日本動物行年東京生まれ。京都大学教授、滋賀県総合地球環境学研究所長 1930 たのだ。
くの優れた研究が生まれてきて配置している。ここから多

生研究員(23)が木の上を指さ合地球環境学研究所の今村彰訪れ、定住する。同行した総や小鳥などさまざまな事物が

目を細めながら眺めている。説明してくれた。日高さんも実をついばんでいますね」とル。とヨドリも。エノキの果し、「あそこにいるのがイカ

っとした森みたいでしょう。い大陰を作っている。「ちょ敗に進むと木々がさらに濃

うな錯覚を覚える。ると、異空間に迷い込んだよと日高さん。確かにここにい周りが住宅地とは思えない」

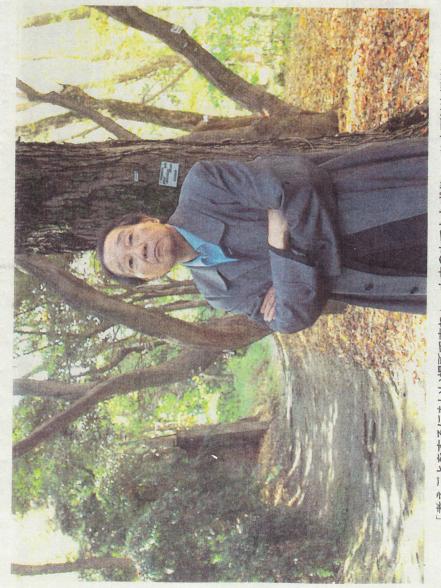
さいた。当初はこの構内に仮住まいし学研究所も2001年の設立学研究所も2001年の設立の勤務先である総合地球環境年まで学部長を務めた。 現在のが1975年。8年から5

ここに来る」というが、最近「頭を休めたいとき、よく

飛び回っている。 のトップとして、全国各地を門家が研究を積み重ねる機関を解決するため、多分野の専い。 地球環境を取り巻く問題はその時間がなかなかとれな

ですよ」(友)ら、こういうところが合うんがフィールドにいる人間だかそよぐ音を聞く。「もともと日の光を浴び、木の葉が風に久しぶりに植物園を訪れて

\*1923年に開設。単に珍しい植物を集めた栽培園ではなく、生態学的な特色をもった場所にしようと池や岩山、洞穴なども計画的に配置した。入園には申請が必要で、問い合わせは京大生物科学専攻事務室(2075・753・4070)へ。外部団体の「京大植物園を考える会」が月1回程度、観察会を行っている。



考えごとをするにもいい場所ですね」。木立の中でたたずむ \*大西健次撮影